

宮古市庁舎跡地活用に関する基本構想 (素案)

平成 年 月

宮古市

目次（資料構成）

第1章 背景

- (1) 検討の経緯と方向性
- (2) 関連計画等における位置づけ

第2章 跡地活用の基本的な考え方

- (1) 計画地の概要（立地特性）
- (2) 活用の基本理念
- (3) 活用のために必要な機能

第3章 整備の進め方

- (1) 事業費及び整備財源
- (2) 整備スケジュール

第4章 整備に向けた諸課題

- (1) 配慮すべき事項
- (2) 市民に親しまれる場所とするために

資料編

資料 1. 東日本大震災による中心市街地の被災状況	. . .
資料 2. 庁舎の変遷	. . .
資料 3. 本庁舎の耐震性能	. . .
資料 4. 拠点施設を中心とした中心市街地の活性化のイメージ	. . .
資料 5. まちづくり市民会議の報告	. . .
資料 6. 市民アンケート調査報告	. . .
資料 7. 全国自治体の活用（計画）事例	. . .
資料 8. 検討の推進方針と推進体制	. . .
資料 9. 検討組織	. . .
資料 10. 主な取組経過	. . .

第1章 背景

(1) 検討の経緯と方向性

宮古市は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、多くの人命を失い、家屋倒壊や鉄道施設の被災など大きな被害を受けました。公共施設では、災害対策本部となる本庁舎が2階床まで浸水し、外部と遮断、孤立したことから災害対策本部のあり方に大きな課題を残しました。

また、昭和47年竣工の本庁舎は耐震性に問題があるほか、本庁舎、分庁舎（昭和37年竣工）とも設備などの老朽化により、維持管理が課題となっています。

これらの現状を踏まえ、宮古市では、「宮古市中心市街地拠点施設整備事業・基本構想（平成26年11月策定）」により、宮古駅南側において、新たなまちづくりの中心となる「地域防災拠点施設」を整備することとし、その主要施設として、本庁舎の移転と分庁舎の集約を計画しています。



津波により浸水した市役所前交差点



本庁舎(本館) (S47 年竣工)

本庁舎、分庁舎の跡地については、宮古駅南側の拠点（地域防災拠点施設）と結ぶ新たな拠点としての整備を想定し、その検討にあたっては、市民ニーズを広く聴き、多くの人々が集う憩いの場を計画、中心市街地地区への波及効果などを検証することとしました。

「宮古市中心市街地拠点施設整備事業・基本計画（平成27年3月策定）」では、「地域防災拠点施設」の整備の方向性を整理しましたが、当該事業の重要な課題の一つとして、中心市街地地区の賑わい創出を掲げ、市庁舎跡地の利活用について、平成27年度中に方向性をまとめることとしました。

これまでに、平成26年度11月に立ち上げた「まちづくり市民会議（市民ワークショップ）」でアイデアを募集し、市民検討委員会、市民アンケート調査等でご意見を伺ってきましたが、本基本構想は、それら市民の参画による検討を経て、とりまとめたものです。



まちづくり市民会議（市民ワークショップ）の様子

- ※ 資料1「東日本大震災による中心市街地の被災状況」
- ※ 資料2「庁舎の変遷」
- ※ 資料3「本庁舎の耐震性能」
- ※ 資料4「拠点施設を中心とした中心市街地の活性化のイメージ」

(2) 関連計画等における位置づけ

市庁舎跡地の利活用は、中心市街地地区の活性化を図るうえで、重要な課題の一つです。

実施にあたっては、「宮古市総合計画（平成23～31年度）」、「新市建設計画（平成17～31年度）」「新市基本計画（平成22～31年度）」並びに「宮古市東日本大震災復興計画（平成23～31年度）」のほか、関連する各種計画等との整合を図り、これら諸計画における各部門別の主要事業と一体的に取り組むことで、総合的に「新たな賑わいづくり」を目指すことが必要です。

なお、「宮古市都市計画マスタープラン（平成15年3月策定）」は、策定から10年以上が経過し、二度の市町村合併や東日本大震災からの復興や防災意識の高まりを背景に、都市づくりの目指すべき方向性として大きな分岐点を迎えています。このことから、都市計画を必要とする各種事業の取り組みを裏づけるため、宮古市総合計画等、上位計画との整合を図りながら、当該マスタープランを見直すこととしています。

第2章 跡地活用の基本的な考え方

(1) 計画地の概要（立地特性）

1) 敷地の現況

現在の本庁舎と分庁舎は、道路を挟み南北に100m程度離れている位置にあります。

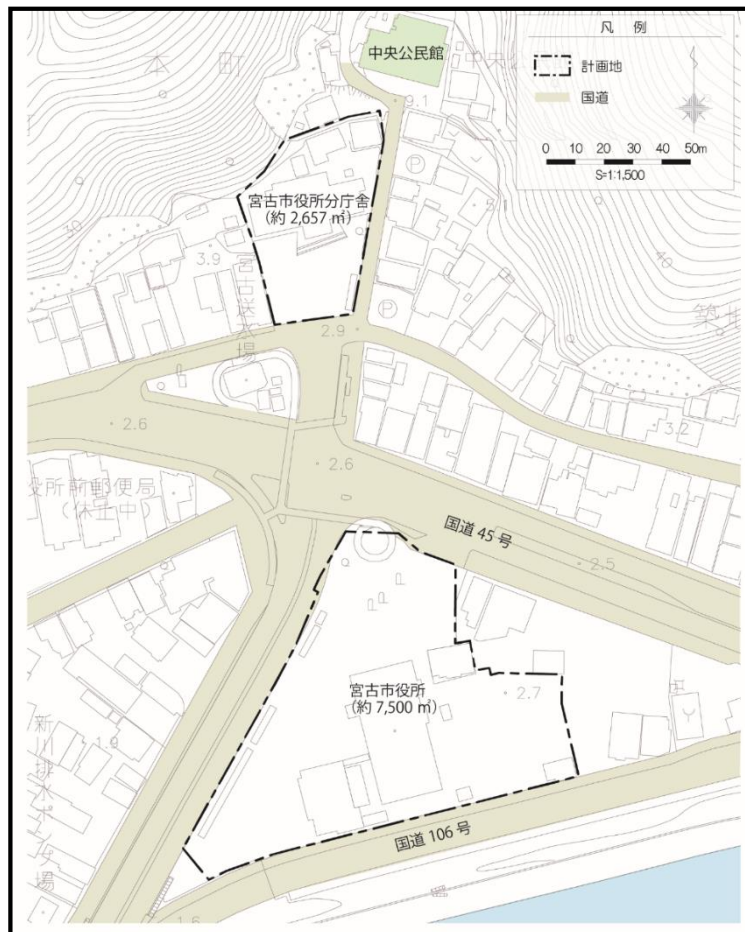
本庁舎は、一般国道106号と一般国道45号に囲まれ、接道条件が良く、南側及び北東側の前面道路は幅員3m以上の歩道が整備されているため、徒歩、自動車によるアクセスが良いと言えます。

同様に、分庁舎も接道条件が良く、南側前面道路には歩道が整備されています。

■ 主な敷地条件

	本庁舎	分庁舎
場 所	宮古市新川町 2-1	宮古市新川町 1-22
敷 地 面 積	約 7,500 m ²	約 2,657 m ²
用 途 地 域	商業地域	
建蔽率／容積率	80／400	

■ 敷地周辺図



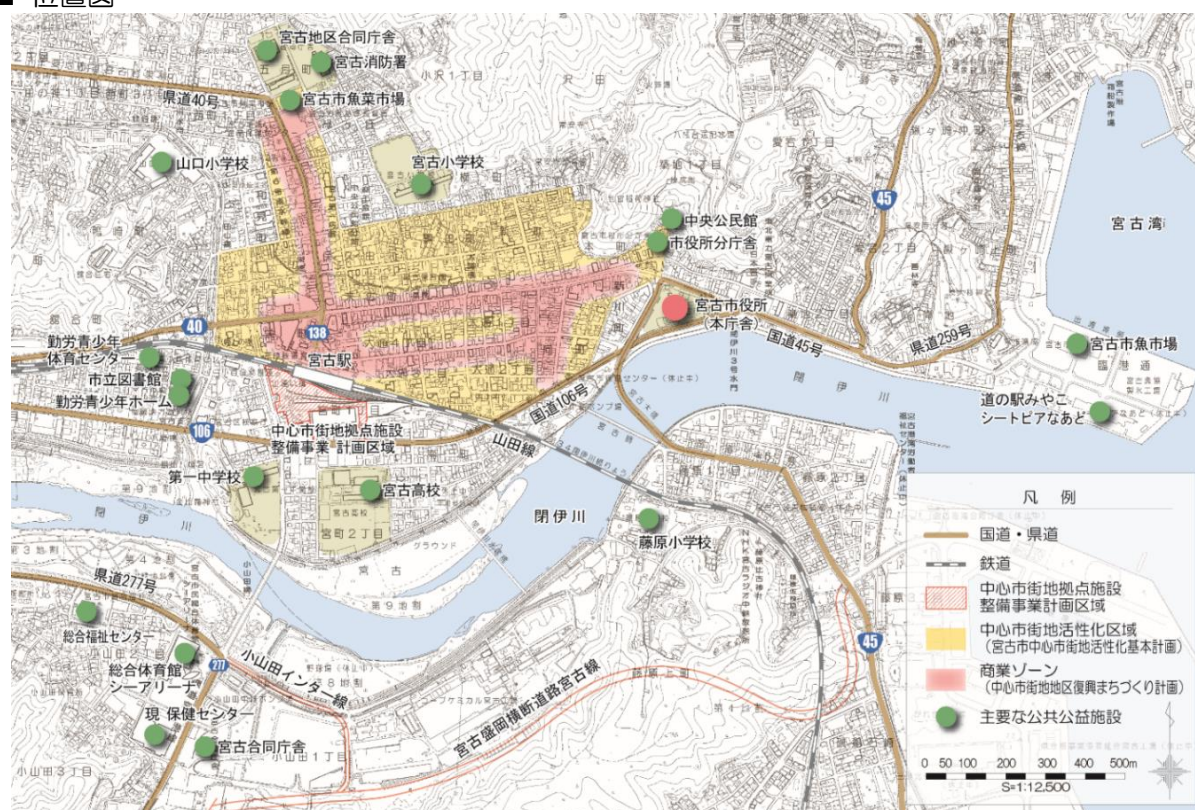
2) 周辺の土地利用の状況

敷地の西側は、商店や宿泊施設などの民間施設が集積した商店街の商業ゾーンが形成されており、宮古駅や商業ゾーンからのアクセス性も良好です。

これらの条件を生かした敷地の有効活用を図るとともに、歩行者向けの魅力あるアクセスルートづくりや公共交通の利便性の向上を図り、西側商業ゾーンと一体的な賑わいのあるまちを形成することが期待されています。

一方で、南側に望む閑伊川や北側の緑豊かな山並みなどの自然景観が残されており、周囲の景観との調和を図り、これらの身近な自然に市民が親しむことが出来るよう、敷地の特性を活かした有効活用も望まれます。

■ 位置図



第4章 整備に向けた諸課題

(1) 配慮すべき事項

1) 地盤高（洪水等の観点）

「宮古市総合ハザードマップ（平成20年3月全世帯配布）」によると、計画地（現庁舎）及び中心市街地拠点施設整備計画区域を含む中心市街地の多くは、100年に1度程度の大雨による洪水で2mから5mの浸水が想定されており、洪水対策について配慮が必要です。

「宮古市中心市街地拠点施設整備事業 基本計画（平成27年3月）」では、「洪水シミュレーションの諸元」や「堤防や用地の標高」、「過去の被害状況（アイオン台風）」等を基に、浸水深をより具体的に検証しています。

同様の算定方法により現庁舎の浸水深を推定すると、本庁舎3.4～4.0m、分庁舎〇～〇mとなり、洪水等の影響も配慮する必要があります。

資料1 東日本大震災による中心市街地の被災状況

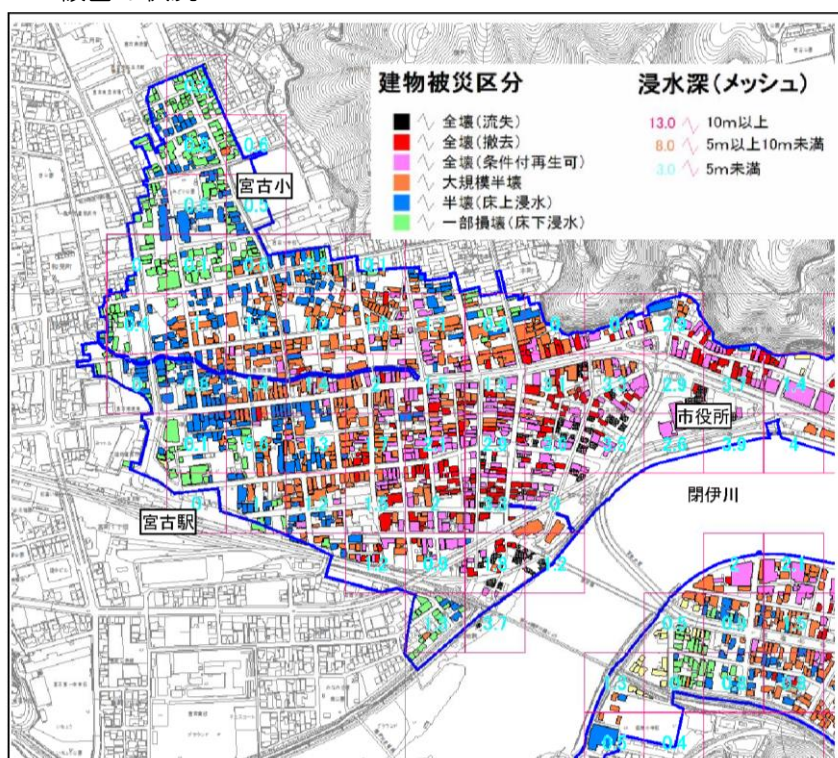
平成23年3月11日の東日本大震災の際は、河川堤防を越流した津波が市街地を襲い、広い範囲で被害を受けました。

浸水面積は48.4haにわたり、浸水高はT.P.+3.3～5.2mとなり、最大浸水深が3.9mに達しました。

浸水区域内の建物は1,270棟あり、その約14%が流失または撤去となる被害を受けました。特に閉伊川に近い区域では、大きな被害となりました。

注) T.P.: 東京湾平均海水面

■ 被害の状況



※被災現況調査(国土交通省)より



資料2 庁舎の変遷

・「庁舎のあゆみ」(旧宮古市)

鍬ヶ崎町役場

鍬ヶ崎町役場は鍬ヶ崎の2丁目と3丁目の境にあった南部藩の「十分一（じょうぶいち）運上所」（税関所）をそのまま利用し、大正13年の宮古町と鍬ヶ崎町の合併まで使用された。

宮古町役場

宮古町役場は、明治22年の町制施行当時は横町にあったとされているが、正確にはわかっていない。

明治37年5月27日、新町より出火した火は、新町、本町、沢田はもとより、向町、田町、そして片桁までの58戸を焼きつくし、翌朝午前4時郡役所前で沈火したといわれている。

その後、いまの中央公民館の位置に宮古町役場が建てられた。この場所は明治23年廃止された宮古監獄跡であり、明治41年に県より払い下げを受けたものと考えられる。



〔大正14年当時の宮古町役場〕

初代市庁舎

明治44年、下閉伊郡会は、宮古町新川町に下閉伊郡物産館兼公会堂を建設した。（工費：5,486円47銭）

大正14年6月、郡からこの建物と土地の払い下げを受け、改めて宮古町有となり、昭和4年には町立宮古商業専修学校が、この公会堂を校舎とした。同12年には消失した愛宕小学校の仮校舎にもなった。

つまり、物産館兼公会堂としての使命をはたし、昭和13年9月に宮古町役場となり、昭和16年2月11日宮古市役所の看板が掲げられた。

その市庁舎も、昭和42年11月隣家よりの出火により、半焼し、解体されて姿を消し、業務は5ヶ所に分散した庁舎で行われた。

〔上：棟上げ（明治44年）〕

〔下：市庁舎となった物産館兼公会堂〕



二代目市庁舎（現在の本庁舎）

昭和45年6月、市は庁内「庁舎建設連絡協議会」、市議会は「庁舎建設特別委員会」を設置した。

昭和46年3月6日着工、翌年6月20日完成した。（工事費：3億9,500万円）

本館は、地上7階、鉄骨鉄筋コンクリート造り、延床面積5,705㎡、別館は、地上2階、鉄筋コンクリート造り、延床面積659㎡。

〔昭和47年5月完成の現庁舎〕



出典：「宮古のあゆみ（昭和49年3月発行）」から抜粋要約

資料3 本庁舎の耐震性能

(宮古市復興推進課・財政課まとめ)

■ 耐震診断とは

昭和 23 年福井地震、昭和 39 年新潟地震、昭和 43 年十勝沖地震、昭和 50 年大分地震などにより予想外の被害を受けたことから、昭和 56 年に建築基準法が大幅改正され、いわゆる新耐震基準が敷かれた。しかし、平成 7 年阪神淡路大震災により新耐震基準以前の建築物に甚大な被害が生じ、そのためこれらの建築物の耐震診断、耐震改修が行われるようになった。

耐震診断とは、新耐震基準以前の建築物が新耐震基準の設計法と同等以上の耐震性を有するかを判定するものである。建築物の耐震安全性を評価する指標として構造耐震指標（ I_s 値）で表される。なお、 I_s 値は建築学上の専門的な数値指標である。

■ 新耐震基準とは

建物が震度 6 強の地震によっても倒壊せず、建物内の人命が危険にさらされない強度を言い、昭和 56 年 6 月以降に建築確認が行われた建物はこの基準を満たしていることになる。

■ I_s 値とは

構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標である。地震力に対する建物の強度と靱性（変形能力、粘り強さ）が大きいほど指標が大きくなり、すなわち耐震性能が高くなる。

$I_s < 0.3$ 地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高い

$0.3 \leq I_s < 0.6$ 地震に対して倒壊または崩壊する危険性がある

$0.6 \leq I_s$ 地震に対して倒壊または崩壊する危険性が低い

■ 本庁舎の耐震診断結果

本庁舎本館 I_s 値=0.21（最低値）、本庁舎別館 I_s 値=0.33（最低値）

※平成 21 年実施の耐震診断（3 次診断）による

【本庁舎本館】

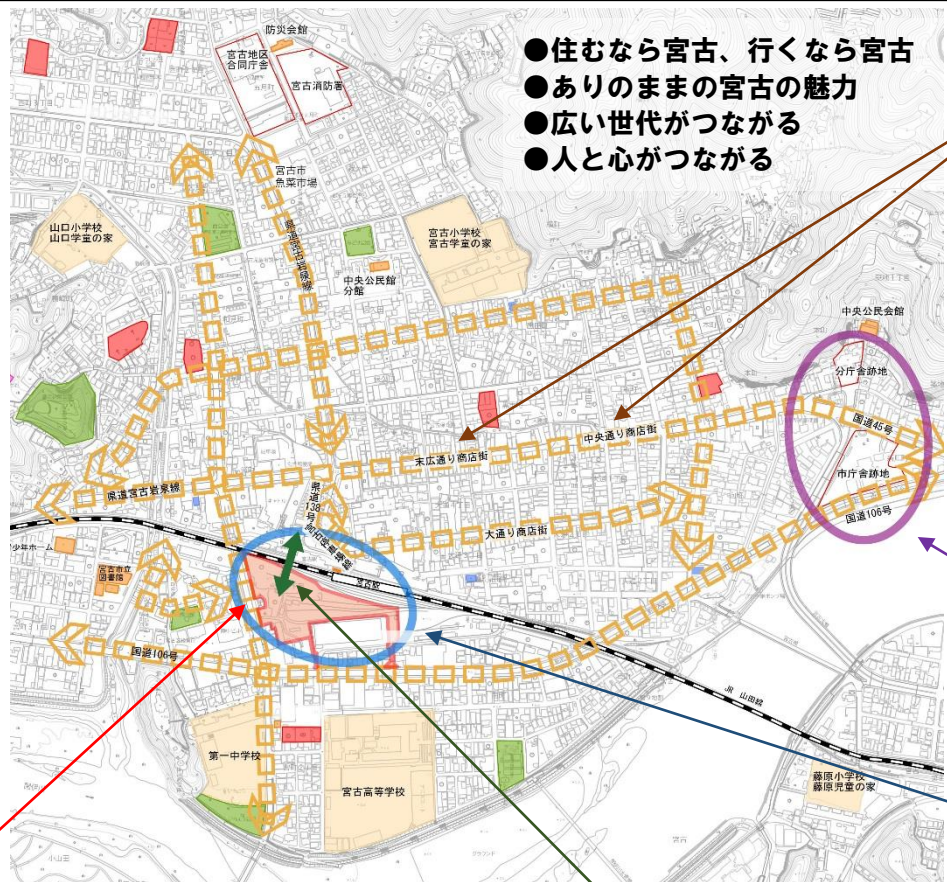
階	X 方向 I_s 値	Y 方向 I_s 値
7	0.23	0.28
6	0.35	0.30
5	0.26	0.26
4	0.26	0.26
3	0.25	0.22
2	0.28	0.22
1	0.33	0.21

【本庁舎別館】


階	X 方向 I_s 値	Y 方向 I_s 値
2	0.62	0.80
1	0.37	0.33

※X 方向とは、庁舎前後方向。Y 方向とは、庁舎左右方向。

৯



回遊性の向上、賑わいの創出

- ・ 駅・拠点施設 ⇒ 商店街 ⇒ 市庁舎跡地へとつながる、歩きたくなる歩行・回遊環境の強化
 - ・ 商店街の低未利用地を活用した、滞留空間の創出（まちなかサロン、チャレンジショップ、ポケットパークなど）
 - ・ レンタルサイクル、駐車場・公共の利便性向上
 - ・ 住民の集まる場所づくり
 - ・ 飲み屋、おいしいお店、スイーツ
- 



おでんせプラザ

市庁舎跡地の利活用

- ・集客、誘客性のある新たなシンボル拠点（まちの顔、元気宮古の象徴）
⇒まちづくり市民会議でのアイデア整理

アイデアの例：公園・スポーツ広場、震災資料館、商業空間・屋台、イベント・多目的ホールなど

宮古駅南側の新たな拠点施設

- ①防災・災害対応の体制強化
- ②中心市街地の賑わい創出
- ③市内各地区（拠点）との連携強化

- ・ワンストップの行政サービス
- ・来る必要なくても来くなる魅力
- ・社会人や学生が利用しやすい環境
- ・まちづくりサポーターの育成
- ・宮古の魅力、災害記録のガイダンス


自由通路

- ・ 駅、拠点施設、商店街のつながりに留意した、自由通路



自由通路イメージ (案)

情報発信の強化

- ・行政サービス、商店街、企業活動などの様々な情報の発信、交流の促進
 - ・市民活動に関する情報発信、相談・サポート
 - ・浄土ヶ浜、道の駅などの観光資源との連携、まちなか観光、防災観光の推進
 - ・宮古らしさをいかしたおもてなし（方言、食べ物、自然環境）
- 
- The image shows the exterior of a modern, single-story building with a white facade and blue horizontal accents. A blue sign above the entrance reads '宮古駅前総合観光案内所' (Miyako Station Comprehensive Tourist Information Center). The entrance features large glass doors and windows, through which some interior displays and a person in a green uniform can be seen. To the left of the entrance is a small display board, and to the right is a potted plant. The building is situated on a paved area with a yellow tactile paving strip leading to the entrance.



観光案内所

みんなで“まちを育てる”フォーラム 市民ワークショップ

かわら版

第1号



平成26年12月
発行：岩手県立大学
盛岡短期大学部
内田研究室

サケのまち宮古PRキャラクター
サーモンくん&みやこちゃん

宮古市では、現在、宮古駅南側に、防災・地域活力創出施設、市役所庁舎、保健センターの3つの機能を集約した拠点施設の整備を検討しています。

新たな拠点施設のあり方や、現在の市庁舎跡地の活用方法、そしてこれらを核とする中心市街地地区に賑わいを産み出すためのアイディアについて、特に若い世代の市民の皆さんの声を活かしながら進めたいと考えています。

そこで「みんなで“まちを育てる”フォーラム」という場を用意しました。この場で、これからの宮古のまちについて、ワークショップ形式で話し合っていきたいと思います。来年夏までの間に5回程度のワークショップを予定しています。皆さんの意見を、これからの宮古市中心市街地のまちづくりにぜひ活かしていきましょう！

11月29日 第1回市民ワークショップが開催されました

平成26年11月29日（土）14時より、市役所6階の大ホールで第1回目の市民ワークショップが開催されました。ワークショップには、高校生、短大生から40歳までの年代の49名の皆さんに参加していただきました。講演のみを聴いた方や見学者を含めると、70名近い皆さんに参加いただきました。当日の様子は宮古市公式facebookページにも掲載されています。

<https://www.facebook.com/city.miyako>

弘前大学 北原啓司先生のお話 「“まち育て”のススメ」

ワークショップに先立ち、弘前大学の北原啓司先生による基調講演が行われました。タイトルは「“まち育て”のススメ」です。

これまでの「まちづくり」は、「つくる人」…つまり役所が主体で、市民は与えられたものをほめたり文句を言うだけの、形だけの参加でした。

でも、そのまちに暮らす市民の皆さんは、「つくる」プロではないですが、「食べる」側のプロです。「つくる」人と「食べる」人とは、お互いの役割を尊重しながら、新しい関係をつくっていくことが大事になります。

これからの高齢化の進む社会は、今ある資源を活用する時代です。そこで、自分たちのまちを「育てていく」という発想が大切になります。



復興のまちづくりに本当に必要な視点は、まちを「食べる人」の視点です。

まちを「食べる人」の武器がワークショップ。足を使い、目と耳を使って課題を見つけだし、自分たちの言葉で考え、創造する…そのための道具がワークショップなのです。

市民ワークショップ 各班での話し合いの様子



ワークショップの前半は、7つの班に分かれて各班ごとに話し合いを行いました。

今回のワークショップでは、活性化しているまち、賑わっているまちの様子をイメージするために、以下の3つの切り口で意見を出すことにしました。

- ①そのまちで自分がしてみたいこと
- ②そのまちで他の人がやっていること
- ③こんなまちはいやだ！

…これらについて、それぞれ色分けして、付箋紙に書き込み、模造紙に張り出しながら意見を発表していきました。

各班からの発表、北原先生のまとめ



その一方で、「こんなまちはいやだ！」という切り口では、バスや電車のアクセスの悪さ、歩道が整備されていない状況、案内サインの不備、街灯の不備、四年制大学がないなどの点が挙げられました。

最後に、北原先生に、たくさん出た意見をまとめてもらい、第1回ワークショップは終了しました。

次回の第2回ワークショップでは、今回のワークショップで示された「賑わっている街、活気がある街のイメージ」を実現するためのアイデアを出すことを目的として実施する予定です。

各班での話し合いの後、班ごとに意見内容を発表し、参加者で意見の共有をしました。

賑わっている街、活気がある街のイメージとして、若者が活躍できる街、子どもの声が聞こえる街、仮設に閉じこりがちの人が出て来なくなる街、つどえる場所、みんなで楽しめるイベント…といったイメージが示されました。

また、「いろいろないいもの、面白いものがあるのでもっと使えばいいのに…」ということで、鮭、面白い人、国立公園、レンタル自転車といったキーワードが出てきました。

第2回ワークショップのお知らせ

日時: 12月20日(土) 13~16時

場所: 市役所6階大ホール

参加は自由です。興味のあるお知り合いの方がいましたらぜひお誘いください！

問合せ先
宮古市役所企画課
電話 68-9089



みやこちゃん

みんなで“まちを育てる”フォーラム 市民ワークショップ

第2号

かわら版



平成27年1月
発行：岩手県立大学
盛岡短期大学部
内田研究室

サケのまち宮古PRキャラクター
サーモンくん&みやこちゃん

新年あけましておめでとうございます。

宮古駅南側に計画されている新たな拠点施設のあり方や、現在の市庁舎跡地の活用方法、そしてこれらを核とする中心市街地地区に賑わいを産み出すためのアイデアについて話し合う「みんなで“まちを育てる”フォーラム」の第2回ワークショップが、昨年12月に開催されました。この「かわら版」第2号では、その時のワークショップの様子を紹介します。

今年夏までの間に、ワークショップを5～6回程度開催する予定です。皆さんの意見を、これからの宮古市中心市街地のまちづくりにぜひ活かしていきましょう！

12月20日 第2回市民ワークショップが開催されました

平成26年12月20日（土）13時より、市役所6階の大ホールで第2回目の市民ワークショップが開催されました。ワークショップには、高校生、短大生から40歳までの年代の52名の皆さんに参加していただきました。当日の様子は宮古市公式facebookページにも掲載されています。

<https://www.facebook.com/city.miyako>

市民ワークショップ 各班での話し合いの様子



E班の話し合いの様子



B班の話し合いの様子



F班の話し合いの様子
後ろからのぞいている人は誰でしょう？

ワークショップに先立ち、宮古市役所の竹田さんより、新しい施設の計画の概要と、現市庁舎の跡地に関する市民アンケートの結果についての説明がありました。

その後、7つの班に分かれて、班ごとにワークショップ形式での話し合いが行われました。今回のテーマは、「前回のワークショップで示された「まちに活気がある」「にぎわっている」というイメージを実現するためのアイデアを出してみよう！」とい

うものです。

それぞれの参加者が、自分の考えたアイデアを「駅南側の新しい施設」「現市庁舎の跡地」「まちなか（中心街）」「その他」という区分けでポストイットに書き出して、班のなかで発表しました。

それから、これらの意見を、大きな地図や模造紙に張りながら、班のメンバーどうして話し合い、まとめていきました。

どんなアイデアが出てきたのでしょうか…

各班からの発表

各班での話し合いの後、班ごとに意見内容を発表し、参加者で意見の共有をしました。それぞれの班から発表された意見の一部を、以下に紹介します。

A班

- ・末広町アーケード化計画
- ・市庁舎跡地…コンサートステージイベントスペース、展望台
- ・宮古は広い。昼休みを2時間に！

B班…住むなら宮古・行くなら宮古

- ・観光インフォメーション…観光案内グルメのフリーペーパー
- ・NPOなどが活動できるスペース
- ・星がきれい…夜の観光

C班

- ・既存のものをアピールしよう！
- ・なあどの有効活用を
- ・新施設…専門知識を持つ人材を

D班…あいのまま宮古II

- ・歴史…震災を若い世代に伝える
- ・市内循環バスを！
- ・学生が集まれるスペースがほしい



E班

…世代ごとを充実させて
広い世代とつなげたい

- ・末広町→「楽鴨」、宮町→「渋谷」
新施設は「新宿」？
- ・汽車が見える図書館併用のカフェ
- ・スポーツ施設（フットサルなど）

F班…人と心がつながる街づくり

- ・目で見て楽しめる商店街
- ・ボランティア活動センター
- ・宮古タワー…宮古の象徴として

G班…「珍百景の街」みやこ

- ・商店街に「隠れサーモンくん」を！
- ・来訪した有名人の手形を残す
- ・市役所を鮭の形にしては？

まとめ・コメント

最後に、県立大学の内田先生が、各班の意見をまとめて、宮古短大の植田先生からコメントをいただき、第2回ワークショップは終了しました。



次回の第3回ワークショップは、実際にまちを歩いてみます。題して「冬のみやこ、まち歩きワークショップ」。十分に暖かい服装でご参加ください。デジカメまたはスマートフォンをご持参ください。

第3回ワークショップのお知らせ 「冬のみやこ、まち歩きワークショップ」

日時：1月24日(土) 13～16時
場所：市役所分庁舎3階大会議室

参加は自由です。興味のあるお知り合いの方がいましたらぜひお誘いください！

問合せ先
宮古市役所企画課
電話 68-9089



みやこちゃん

みんなで“まちを育てる”フォーラム 市民ワークショップ

第3号



平成27年2月
発行：岩手県立大学
盛岡短期大学部
内田研究室

サケのまち宮古PRキャラクター
サーモンくん&みよこちゃん

1月24日 第3回市民ワークショップが開催されました

宮古駅南側に計画中的新たな拠点施設のあり方や、現市庁舎跡地の活用方法、そしてこれらを核とする中心市街地地区に賑わいを産み出すためのアイデアについて話し合う「みんなで“まちを育てる”フォーラム」第3回目の市民ワークショップが、1月24日（土）に開催されました。

今回のワークショップは「冬のみよこ、まち歩きワークショップ」と題して、冬の昼下がりのまちを皆で歩いてみました。当日は天気にも恵まれ、高校生、短大生から40歳までの年代の36名の皆さんに参加していただきました。当日の様子は宮古市公式facebookページにも掲載されています。 <https://www.facebook.com/city.miyako>

さあ、いざ「まち歩き」へ出発！！

今回のテーマは、まちで見たものの中で「今日はどうしてもこれを伝えたい！」と感じた「今日の1枚」の写真を撮ってくることです。

初めに、弘前大学の北原先生から「まち歩きの心得」についてアドバイスがあり、その後、各班ごとに分かれて、まち歩きに出発しました。



皆さんが選んだ「今日の1枚」について発表

その後、参加者の皆さんが選んだ「今日の1枚」を順番にスクリーンに映しながら、一人ずつ自分が選んだ写真を紹介し、思い思いにコメントをしました。

皆さんそれぞれ、様々な切り口で宮古の街のワンシーンを切り取ってくれました。皆さんから発表された「今日の1枚」の一部を、以下に紹介します。



視線の先の稜線



親子仲良く風揚げ



お年寄りの社交場



川岸に力尽きた鮭が



子どもを乗せられる自転車



山口川にカモが来てほしい



いまでしょ!!



バス停のベンチ



若い女子、大コーフン!



「昭和」ストリート



サントス!



「あーら おすばらぐだがねえ」



ガッチャンポン



魚市場にはどう行くの?



昼からカラオケ大会



.....かぼちゃ

次回は、撮った写真を使ってマップづくりをします

最後に、弘前大学の北原先生からコメントをいただき、第3回ワークショップは終了しました。

次回の第4回ワークショップは「冬のまち歩きワークショップ～マップづくり」。今回のまち歩きで撮った写真を使って、まちなかのマップをつくる予定です。

第4回ワークショップは、自分の写真がなくても参加できます。第3回を欠席した方で、皆に見てもらいたい写真があるという人は、その写真をデジカメ（スマートフォン）に入れたまま当日持って来てください。

また、今回歩かなかったエリアで、「ここはぜひ見てほしい」というものがある人は、写真を撮って当日持って来てください。

第4回ワークショップのお知らせ

「冬のまち歩きワークショップ～マップづくり」

日時: 2月21日(土) 13:30～16:30

場所: 市役所分庁舎3階大会議室

参加は自由です。興味のあるお知り合いの方がいましたらぜひお誘いください!

問合せ先
宮古市役所企画課
電話 0193-68-9089





2月21日 第4回市民ワークショップが開催されました

宮古駅南側に計画中的新たな拠点施設のあり方や、現市庁舎跡地の活用方法、そしてこれらを核とする中心市街地地区に賑わいを産み出すためのアイディアについて話し合う「みんなで“まちを育てる”フォーラム」第4回目の市民ワークショップが、2月21日（土）に開催されました。

今回のワークショップは「冬のまち歩きワークショップ～マップづくり」。先月開催されたまち歩きで感じたこと、気づいたことを基にして、マップづくりの作業を行いました。

ワークショップには、高校生、短大生から40歳までの年代の29名の皆さんに参加していただきました。当日の様子は宮古市ホームページ、および宮古市公式facebookページにも掲載されています。 <https://www.facebook.com/city.miyako>

市民ワークショップ 各班でのマップづくりの様子

今回のワークショップでは、まず最初に、前回の「まち歩き」で自分が撮った写真をポストイットに貼ってコメントを書き込み、班の他のメンバーに紹介しました。良い印象の写真、悪い印象の写真、気になる写真など、それぞれコメントを付けた写真を、白地図に貼りこんでいきました。

それから、班ごとに、「まち歩きのルート」をイメージしながら、どういうルートにするのが良いか、そこでどんなアイディアが考えられるかなどについて、メンバーどうしで話し合いました。

この話し合いで出てきた意見を、地図に書き込んだり、写真を貼ったりしながら、「まち歩きマップ」としてまとめていきました。

さて、いったいどんな「まち歩きマップ」が完成したのでしょうか…



前回の「まち歩き」で撮った写真をポストイットに貼り、コメントを付けて…



「まち歩きマップ」としてまとめていきます

各班でつくった「まち歩きマップ」の発表

各班でつくった「まち歩きマップ」の発表の様子は以下のとおりです。最後に、県立大学の内田先生からまとめのコメントがあり、第4回ワークショップは終了しました。



A班 冬のスタンプラリーまち歩き

宮古市民も知らないようなルートを意識して、マップづくりをしました。



B班 世代別デートコースの提案

高校生、二十代、親子連れ、シニア世代と、各世代ごとのデートコースを提案。



C班 スタンプラリーとサイクリング

サイクリングロード、駐輪場（お休み処）など、自転車を活かしたアイディア。



D班 古き良き「あうえーこ」

あうえーこを通りながら、神社や鉄道跡などの宮古の歴史を探索するルート。

※ あうえーこ：間、奥まった小道



E班 駅を中心とした充実した日常

現状のBeforeの地図に対し、改善するアイディアをAfterの地図に盛り込みました。



F・G班 ターゲットは観光客

観光客の目線でのマップ。古民家を活かしたカフェなどのアイディアを提案。

今後の予定…4月以降もぜひご参加ください！

今回までのワークショップでは、宮古の歴史的な資源を活かそうというアイディアが多く挙げられています。そこで、次回の第5回ワークショップは、「先輩に聞く！昔のみやこまち」と題して、昔の宮古の暮らしの様子を紹介してもらう機会とします。

さらに、5月から7月までの間は、「シナリオづくりワークショップ」として、街なか暮らしをどう楽しむかイメージしながら、特に市役所跡地の利活用についてのアイディアを考えるワークショップを、月1回程度のペースで行う予定です。

その後、これまでの成果をまとめて、8月頃に報告会を行い、市長への提言を行う予定です。4月以降もぜひご参加ください！

第5回ワークショップのお知らせ

「先輩に聞く！昔のみやこまち」

日時：4月11日（土）13:30～15:00

場所：市役所分庁舎3階大会議室

参加は自由です。興味のあるお知り合いの方がいましたらぜひお誘いください！

問合せ先
宮古市役所企画課
電話 68-9089

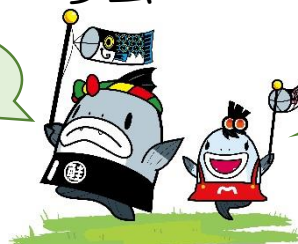


みやこちゃん

みんなで“まちを育てる”フォーラム
市民ワークショップ

かわら版

第5号



平成27年5月
発行：岩手県立大学
盛岡短期大学部
内田研究室

サケのまち宮古PRキャラクター
サーモンくん&みやこちゃん

4月11日 第5回市民ワークショップ特別講座が開催されました

宮古駅南側に計画中的新たな拠点施設のあり方や、現市庁舎跡地の活用方法、そしてこれらを核とする中心市街地地区に賑わいを産み出すためのアイディアについて話し合う「みんなで“まちを育てる”フォーラム」第5回目の市民ワークショップ特別講座が、4月11日（土）に開催されました。

前回までのワークショップでは、宮古の歴史的な資源を活かそうというアイディアが多く挙げられていました。そこで、今回のワークショップは特別講座とし、「先輩に聞く！昔のみやこまち」と題して、昔の宮古の街の様子や暮らしの様子を紹介してもらう機会としました。

ワークショップには、高校生、短大生から40歳までの年代の27名の皆さんに参加していただきました。当日の様子は宮古市ホームページに掲載されています。

講師の橋本久夫さんのお話

今回のワークショップの講師は、（有）タウン情報社代表取締役の橋本久夫さんです。

橋本さんは、月刊「みやこわが町」というタウン誌を編集、発行しています。昭和52年に創刊され、震災を乗り越え、今年4月号で436号となりました。「みやこわが町」の編集コンセプトは「ふるさと愛」。地域の文化にこだわり、ふるさとの歴史や方言、地域の人々の今を生きる姿にスポットをあててきているそうです。

当日の講演では、「みやこわが町」の創刊からのお話や、明治から昭和にかけて撮影された写真を紹介しながら、撮影された時代の様子や写真にまつわるエピソード、現在の「みやこまち」との比較など貴重なお話を聞くことができました。

最後に、橋本さんは以前ワークショップで行った「まち歩き」について触れ、「まち歩きを行ったのは非常に良いこと。まちづくりのためには「まち」を知らなくてはならないですが、まち歩きはそのための身近なツールです」とまとめられました。

次のページでは、橋本さんが紹介して下さった、ちょっと昔の「みやこまち」の様子を紹介しましょう。



講師の橋本久夫さん



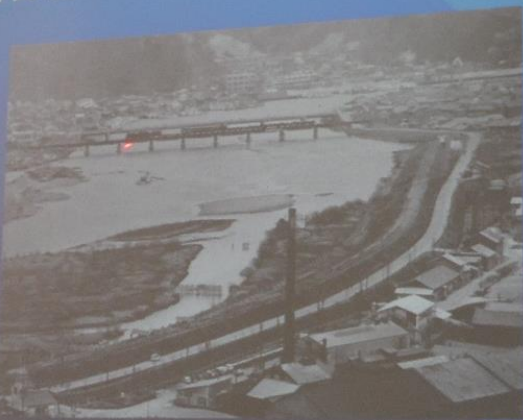
紹介していただいた、ちょっと昔の「みやこまち」の風景から…

山口川本町通り



昭和32年の本町通りの様子。現在は山口川には蓋がかけられ、道路になっています。

宮古橋と山田線鉄橋



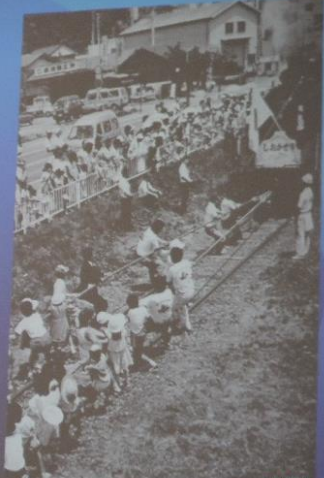
昭和42年、宮古橋と山田線鉄橋の風景。SLが走っています。宮古大橋はまだありません。

おでんせ市 中央通



昭和50年の中央通「おでんせ市」の様子。多くの人で賑わっている様子がわかります。

SL C10-8



2015. 4. 11

かつて臨港線を走っていたSL「C10-8」。昭和62年にはイベントも行ったそうです。

今回は「シナリオづくりワークショップ」です！

次の第6回ワークショップは、5月23日（土）に開催予定です。今回は、「シナリオづくり」にチャレンジします。ある1日の過ごし方について、みやこの街なかでの暮らしをどう楽しむかをイメージしながら、映画のシナリオをつくってみよう…というワークショップです。特に、市役所跡地の利活用についてのイメージ、アイディアを考える機会にしたいと考えています。

その後は6月20日（土）と8月1日（土）にワークショップを行う予定です。そして、これまでの成果をまとめて、報告会を行い、市長への提言を行う予定です。今後もぜひご参加ください！

第6回ワークショップのお知らせ

「シナリオづくりワークショップ」

日時：5月23日（土）13:30～16:30

場所：市役所6階大ホール

参加は自由です。興味のあるお知り合いの方がいましたらぜひお誘いください！

問合せ先
宮古市役所復興推進課
電話 68-9089



みやこちゃん

みんなで“まちを育てる” フォーラム 市民ワークショップ

第6号

かわら版

平成27年6月
発行：岩手県立大学
盛岡短期大学部
内田研究室



サケのまち宮古PRキャラクター
サーモンくん&みやこちゃん

5月23日 第6回市民ワークショップが開催されました

宮古駅南側に計画中的新たな拠点施設のあり方や、現市庁舎跡地の活用方法、そしてこれらを核とする中心市街地地区に賑わいを産み出すためのアイディアについて話し合う「みんなで“まちを育てる”フォーラム」第6回目の市民ワークショップが、5月23日（土）に開催されました。

今回は「シナリオづくりワークショップ」。前回までの意見交換や「まち歩き」を思い出ししながら、「ある土曜日のまちなかでの過ごし方」をイメージし、4～5枚の紙芝居形式のシナリオづくりにチャレンジしました。

ワークショップには、高校生、短大生から40歳までの年代の24名の皆さんに参加していただきました。当日の様子は宮古市ホームページ、および宮古市公式facebookページにも掲載されています。 <https://www.facebook.com/city.miyako>

市民ワークショップ 各班でのシナリオづくりの様子

シナリオづくりの作業に先立ち、弘前大学の北原先生より、「大人の「上から目線」ではなく、子どもの「身の丈目線」で考えてみよう」とのアドバイスがありました。

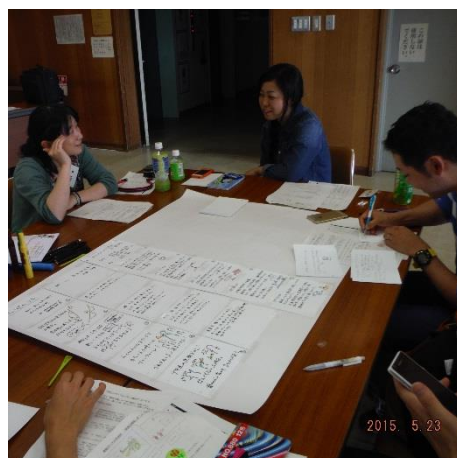
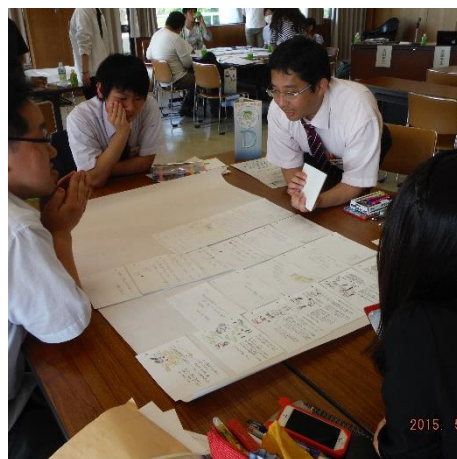
まずは、各自でのシナリオづくりの作業です。「ある土曜日に宮古のまちなかでどのように過ごすか」をイメージしてストーリーをつくります。主人公は、自分でもよいし、他の人でもかまいません。どこか1つのシーンには、現市庁舎の跡地が舞台になるようにするのが条件です。そのストーリーを、紙芝居のように1枚ずつカードに記入していきましました。

それから、班のなかで一人ずつ自分のつくったシナリオを発表し、班のメンバーで共有しました。

さて、いったいどんなシナリオができたのでしょうか…



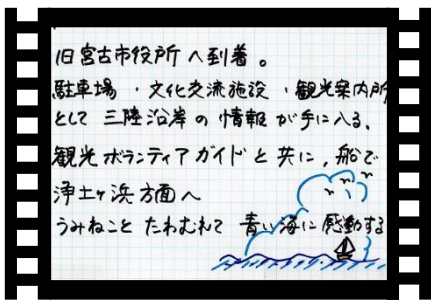
自分が考えたストーリーを、班のメンバーに発表しました



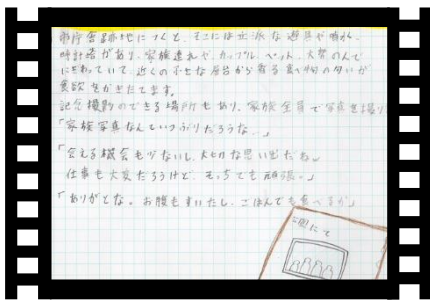
模造紙にカードを並べて貼って、シナリオ完成！

どんなシナリオ、どんなシーンができたでしょう…

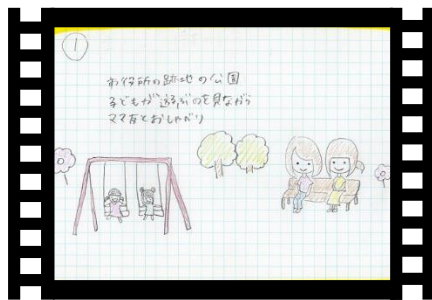
参加者の皆さんがつくったシナリオの1シーンをいくつか紹介します。皆さん、いろいろなまちなかでの過ごしかたをイメージしてくれました。



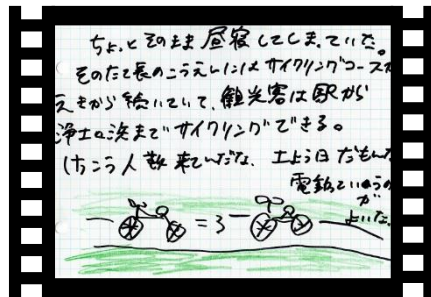
帰省した同級生達と、船で
浄土ヶ浜へ！



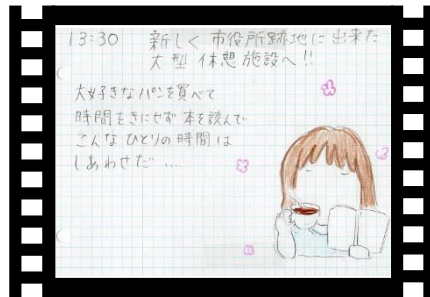
単身赴任中のお父さんが宮古へ。久しぶりの家族写真。



子どもが遊ぶのを見ながら、
ママ友とおしゃべり



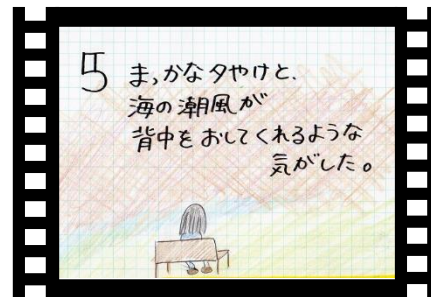
電動自転車で浄土ヶ浜までサイクリング



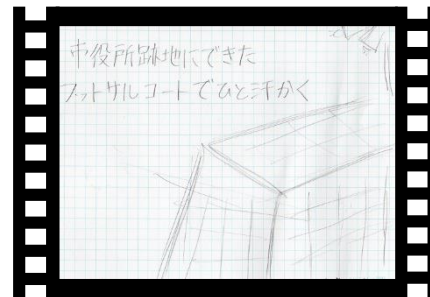
パンを食べながらゆっくり
読書…しあわせな時間



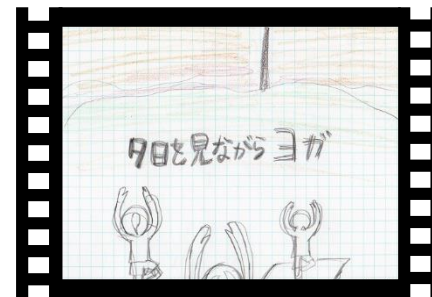
高校生カップルは公園でバドミントン



仕事で怒られた日の夕方、
夕やけに元気をもらう



カフェでランチのあとは、
フットサルコートでひと汗



今ドキ女子は、夕日を見ながらヨガで自分みがき

今後の予定…現市庁舎跡地での過ごし方をイメージしてみます

各班からの発表の後、北原先生からコメントをいただき、第6回ワークショップは終了しました。

次回の第7回ワークショップのテーマは
 「現市庁舎跡地での過ごし方をイメージし
 う」。今回つくったシナリオをベースにしな
 がら、さらにイメージを膨らませてみます。
 さあ、皆さんで、跡地を舞台にしたいいろい
 ろな「私の1シーン」をつくってみましょう。

その後、これまでの成果をまとめて、8月1日（土）に市長へのプレゼンテーションを行う予定です。今後もぜひご参加ください！

第7回ワークショップのお知らせ

「現市庁舎跡地での過ごし方をイメージしよう」

日時:6月20日(土)13:30~16:30
場所:市役所6階大ホール

参加は自由です。興味のある
お知り合いの方がいましたら
ぜひお誘いください！

問合せ先
宮古市役所復興推進課
電話 68-9089



みやこちゃん

みんなで“まちを育てる” フォーラム 市民ワークショップ

第7号

かわら版



平成27年7月
発行：岩手県立大学
盛岡短期大学部
内田研究室

サケのまち宮古PRキャラクター
サーモンくん&みやこちゃん

6月20日 第1回市民ワークショップが開催されました

宮古駅南側に計画中的新たな拠点施設のあり方や、現市庁舎跡地の活用方法、そしてこれらを核とする中心市街地地区に賑わいを産み出すためのアイディアについて話し合う「みんなで“まちを育てる”フォーラム」第7回目の市民ワークショップが、6月20日（土）に開催されました。

今回は、特に市庁舎跡地に焦点を当てた、前回の「シナリオづくりワークショップ」の続編。市庁舎跡地でどのように過ごすかをイメージし、各メンバーのイメージを共有しました。

ワークショップには、高校生、短大生から40歳までの年代の29名の皆さんに参加いただきました。当日の様子は宮古市ホームページ、および宮古市公式facebookページにも掲載されています。 <https://www.facebook.com/city.miyako>

市民ワークショップ 市庁舎跡地での過ごし方をイメージ

初めに、市庁舎の敷地はどんな場所なのか、バルコニーから眺めてみました。そして、「市庁舎跡地での過ごし方」をイメージして、それを映画のワンシーンのようにカードに記入していきました。

それから、班ごとにまとめ、発表です。さて、どんなイメージが出てきたでしょう…



市庁舎の敷地はどんな場所だろう？



模造紙に張りながらまとめました

A班 「癒しの広場」



一つの用途だけにするのはもったいない！
「ホスピタリティ」「スポーツ」「アート」
「アクティビティ」の4つのテーマで活用していこう！

B班 「人が集うまち宮古」



人が集まり、情報が集まる「つながる場」。
普段の日常のなかではゆったりと過ごせる場所として。夏フェスや「日本一のピヤガーデン」などのイベント開催にも活用を！

C班 「デート・酒・文化に飢えている宮古市民」



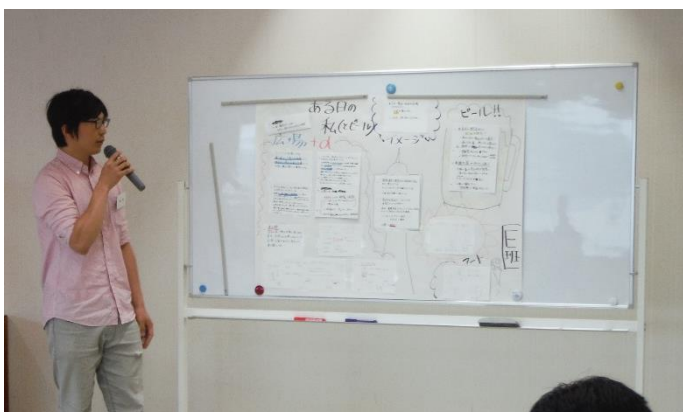
10～20代：デートもジョギングも
20～30代：ビールを片手にゆったり
30～40代：家族で、子どもと訪れたい
…全世代が使える場所にしよう！

D班 「四季を楽しむ共育みやこ！」



春は桜、夏は船、秋は味覚、冬はイルミネーション…四季それぞれに楽しめる、みんなの憩いの場にできるといい！教育や研究に活用するアイディアも。

E班 「ある日の私(とビール)」



アートフェス、夏祭りや秋祭り、ランニングコース、川遊び…いろいろな場面で。宮古の特産品を売っているところもあるといい。あとは、何といたっても屋外でビールを！

「〇〇できる□□」という表現が多かったのが印象的でした。それから、海とのつながり、末広町とのつながり、分庁舎とのつながりというように、つながり…移動のイメージが出てきたのが良かったですね。「でっかいハコモノ」ではなく、「〇〇できる場所」というイメージを大事にしていきましょう！



最後に、弘前大学の北原先生からコメントをいただき、今回のワークショップは終了しました。

今後の予定 …市長にプレゼンテーション！

次回の第8回ワークショップは8月1日（土）14時より開催予定です。今回は、いよいよ、これまでの成果をまとめて、市長へのプレゼンテーションを行う予定です。ぜひご参加ください！

なお、この「みんなで“まちを育てる”フォーラム」は、次回で一区切りとなります。そこで、次回ワークショップの終了後、参加者の皆さんで、成果（アイディア）と軽食を囲んでざっくばらんに話をする交流会を開催します。こちらにも、ぜひご参加ください。23

第8回ワークショップのお知らせ

「成果発表－市長にプレゼンテーションしよう」

日時：8月1日（土）14:00～17:00

場所：市役所6階大ホール

参加は自由です。興味のあるお知り合いの方がいましたらぜひお誘いください！

問合せ先
宮古市役所復興推進課
電話 68-9089



みやこちゃん

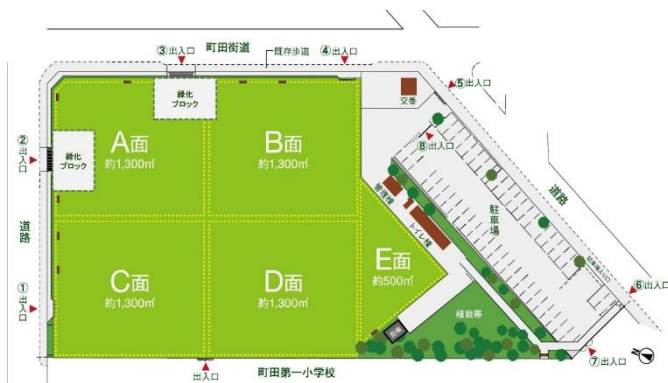
資料7.全国自治体の活用（計画）事例

1. 町田市庁舎跡地

所在地	本庁舎跡地：東京都町田市中町1丁目20-23 中町第三庁舎跡地：// 4-2
敷地面積	本庁舎跡地：約9,254㎡、中町第三庁舎跡地：約2,060㎡
整備施設等	本庁舎跡地：芝生広場、屋根つきイベント空間の整備 中町第三庁舎跡地：企業支援施設（庁舎建物を改修し利活用）

<本庁舎跡地利用>

■ 町田シバヒロ平面図



■ 現況写真



※平面図、現況写真ともに町田市HPより

■ 事業スケジュール

2012年7月14～16日 庁舎移転、2012年度下期～2013年度上期 建物の解体

2013年度上期 広場の整備計画の策定、2013年度下期 広場整備と管理・運営計画の策定

2013年末 広場オープン、2018年～ 屋根つきイベント空間の整備

<中町第三庁舎跡地利用>

■ 企業支援施設整備イメージ



インキュベーション施設

（個別ブース、交流スペースなどのオフィス機能を提供）



貸事務所

※町田市庁舎跡地活用基本構想（2012年11月町田市）より

■ 事業スケジュール

2012年7月7～8日 庁舎移転、2012年度下期 建物の改修、管理・運営計画の策定

2013年4月 企業支援施設オープン

2. 立川市庁舎跡地

所在地	東京都立川市錦町 3 丁目 2-26
敷地面積	約 9,222 ㎡
整備施設等	立川市子ども未来センター（庁舎建物を改修し利活用） 「子育て教育支援」「文化芸術活動支援」「市民活動支援」「にぎわい創出」「行政機能補完」 （建物延べ床面積 4,495 ㎡、建設規模：SRC 造一部 S 造 地上 2 階、地下 1 階、1970 年竣工、2012 年改修）

■ 施設概要、経緯

立川市子ども未来センターは、1970 年に竣工した立川市役所第 2 庁舎を改修し、子育て、教育、市民活動、文化芸術活動を支援し、さらに賑わい事業によって地域の賑わいを生み出すことを目指した、市民に開かれた活動拠点として計画された。

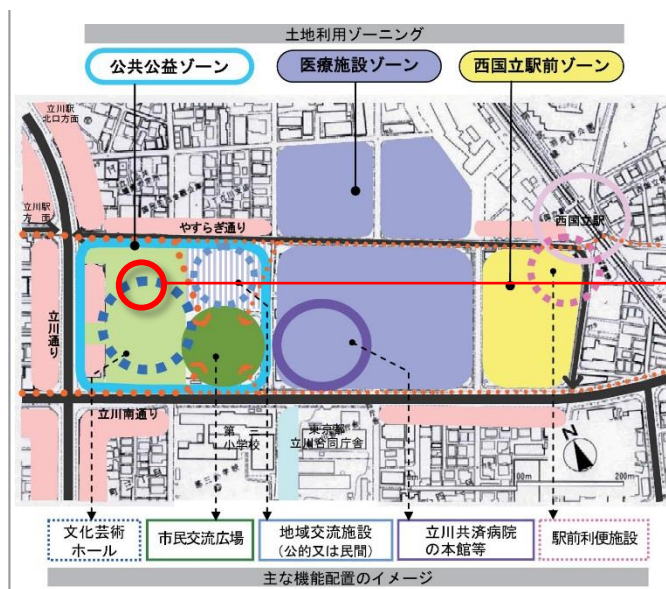
市はこの施設整備にあたり、築 43 年経過した建物（庁舎）の再利用によるストック活用のアイデアを PPP（官民連携）という事業手法を活用し公募を行った。

■ 現況写真



※立川市子ども
未来センターHP より

■ 参考）周辺土地利用ゾーニング



立川市子ども未来センター

※旧庁舎周辺地域グランドデザイン
（平成 22 年 3 月立川市）より抜粋
の図面に一部（赤）書き込み

3. 伊根町庁舎跡地

所在地	京都府与謝郡伊根町平田 493
敷地面積	約 913 m ²
整備施設等	伊根浦公園（舟屋型休憩所）、駐車場 13 台（バス 1 台含む） 2013 年 3 月 供用

■ 旧庁舎跡地概要、経緯

伊根町では、伊根浦の舟屋群が国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けたこと等に伴い、町を特色づける拠点である伊根浦地区の活性化を進めている。

町役場については、平成 17 年 4 月、施設の老朽化・狭隘化等もあり別地区の幹線道路沿いへと移転し、その後は遊休状態となっていた。敷地は伊根地区の中心地に位置し、周囲には小学校などの公共施設や商店、旅館、民宿など民間施設が集積され営まれている。

※以上、伊根町役場跡地活用事業提案公募要項より

■ 海側から見た旧庁舎とその周辺



■ 敷地から見た風景



※伊根町 HP より

■ 現況写真



※伊根町マスコットキャラクター「ふなやん」のブログより

<http://ameblo.jp/ine-kankou/entry-11493070802.html>

<http://ameblo.jp/ine-kankou/entry-11480924393.html>

4. 山武市「松尾地域賑わい空間創出事業基本計画」

■ 庁舎跡地の概要

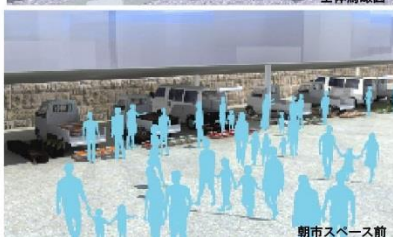
所在地	千葉県山武市松尾町松尾 40-2
敷地面積	12,633 m ²
用途地域	第一種居住地域（建ぺい率 60%、容積率 200%）
建物延べ床面積	5,454 m ² （松尾庁舎：2,879 m ² 、松尾洗心館：1,045 m ² 、松尾ふれあい館：1,179 m ² 、旧教育委員会棟：351 m ² ）
設置年度	松尾庁舎：昭和 48 年、松尾洗心館：昭和 49 年 松尾ふれあい館：平成元年、旧教育委員会棟：昭和 57 年
建物構造	全施設：RC 造
建物階数	松尾庁舎：3 階、松尾洗心館：3 階、松尾ふれあい館：2 階 旧教育委員会棟：3 階

■ 庁舎跡地の施設整備基本方針

- （１）地域資源の活用：地域資源が活用できる施設
- （２）地域コミュニティの場：地域住民がふれあい、交流できる施設
- （３）生き生きと活動する場：地域の人たちが生きがいを持って健康で生活するための施設

■ 施設の利用イメージ、規模等

施設整備 基本方針	導入施設		導入施設	施設規模	利用の考え方	
	（屋外）	（屋内）				
地域資源の 活用の場	■物品販売		＜活動施設＞	多目的利用施設	450㎡程度	物品販売、講座開催、交流サロン等として利用できる施設として整備します。その中で、運営体制等の検証を行い、担い手の育成を図ります。
	・朝市スペース ・フリーマーケットスペース	・物販スペース ・棚ショップ、チャレンジショップ等の開催スペース ・デリカテッセン ・加工スペース				
	■飲食					
	・屋根付き オープンスペース	・レストラン ・フードコート				
地域コミュ ニティの場	■教室・講座		屋根付き オープンスペース	350㎡程度	広場利用者の休憩の場として、多目的利用施設で販売される商品を食べながら、ゆっくりと語らえるスペースを確保します。	
	・広場	・調理スペース ・交流サロン ・パソコンスペース				・工房 ・教室（講座開催用）
	■発表・展示					
	・屋根付き オープンスペース	・ホール ・史料館 ・ギャラリー				
生き活きと 活動する場	■健康		広場	2,200㎡程度	跡地利用における要の場所として、今後の活用の制限とならないように中心部に確保します。通常は、子どもたちが自由に遊べるスペースとして想定しますが、フットサルやゲートボールなどのスポーツ利用も可能です。	
	・広場 ・こどもの遊び場	・トレーニングスペース ・こどもの遊び場				
・・・						
その他必要 な施設	導入施設		駐車場	3,000㎡程度	施設利用者の駐車場として整備します。（100台程度）	
	（屋外）	（屋内）				
その他必要 な施設	・防災倉庫 ・トイレ ・駐車場	・銀行ATM	防災倉庫、屋外トイレ	—	災害時に必要な備蓄品を保管できる防災倉庫を整備します。また、24時間利用可能なトイレを整備します。	



※松尾地域賑わい空間創出事業
基本計画（平成 24 年山武市）
及び資料より

資料 8 検討の推進方針と推進体制

宮古市庁舎跡地活用の検討に関する推進方針

（基本姿勢）

第1 本検討は、市政の重要な課題の解決を目指すものであることから、宮古市自治基本条例第4条（参画と協働の原則）、第14条第2項及び第3項（市政運営の原則）の規定に基づき、市民とまちづくりの目標を共有し推進するものとする。

（基本的考え方）

第2 本検討にあたっての基本的な考え方は、次のとおりとする。

- 1 「宮古市総合計画（平成23～31年度）」、「新市建設計画（平成17～31年度）」「新市基本計画（平成22～31年度）」並びに「宮古市東日本大震災復興計画（平成23～31年度）」のほか、関連する各種計画等との整合を図る。
- 2 宮古駅南側において整備予定の地域防災拠点施設と同様に、重要な新たな拠点として活用を検討する。検討にあたっては、効果的な活用方法について市民ニーズを広く聴き、多くの人々が日常的に集う憩いの場、また、賑わいをもたらす拠点となることを主眼とする。
- 3 宮古市参画推進条例の規定に基づき、市民の参画により立案する。

（推進体制）

第3 本検討の推進体制は、次のとおりとする。（別紙、推進体制図のとおり）

- 1 市民参画
 - (1) 基本的事項については、中心市街地拠点施設市民検討委員会及びまちづくり市民会議にて検討する。
 - (2) 市民の意向を把握するため、積極的に意見表明の場（市民意識調査、パブリック・コメント、市民説明会など）を設けて、検討の経過について公表するものとする。
- 2 庁内体制
 - (1) 計画の原案は、中心市街地拠点施設整備検討委員会にて検討する。
 - (2) 基本的事項の検討及び調整は、事業を所管する関係部署等と連携して行うものとする。

（推進の手順）

第4 本検討に基づく基本構想等の決定手順は、次のとおりとする。

中心市街地拠点施設市民検討委員会の検討事項の報告に基づき、中心市街地拠点施設整備検討委員会での原案作成及び経営会議における審議決定により、市民の参画及び議会との意見交換を経て、市長決裁により策定する。

宮古市中心市街地拠点施設整備事業 推進体制図（市庁舎跡地活用検討）

計画等説明・意見聴取

市議会

市長

原案

提言

代表

中心市街地拠点施設
市民検討委員会

参画 (原案検討等)

- 学識経験者
- 関係機関・団体の役職員
- その他必要と認める者

市民

- まちづくり市民会議
- 市民意識調査
- 市民意見公募
(パブリック・コメント)
- 市民説明会、出前説明会

地域協議会、関係機関・団体
など

経営会議（政策調整会議）

- ・主 宰 市長
- ・構成員 副市長、部長等
- 〈役割〉
- 基本的な方針又は計画等に関する原案の意思決定
- 市民に公表あるいは市議会に議案提出する重要事項の確認

意思決定

提言・意見の反映

- 宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会は、外部検討組織として要綱により設置する。市長からの原案提示等に対して検討を行い意見集約し報告する。
- 宮古市中心市街地拠点施設整備検討委員会は、庁内検討組織として要綱により設置する。諸課題の解決に向けた具体的な検討を行う。
また、庁内検討委員会の連携組織として必要に応じて専門部会を置き、計画等の原案作成や諸課題の解決に必要な調査、企画、資料の取りまとめ等を行う。

庁内推進体制

中心市街地拠点施設整備
検討委員会

- ・委員長 企画部長
- ・副委員長 復興推進課長
- ・構成員 各部主管課長等
- 〈役割〉
- 計画等の原案作成に係る検討
- 諸課題の解決に向けた具体的な検討

原案・課題・検討

専門部会
〔施設活用部会〕

- * 委員会の連携組織として必要に応じて、関係課担当長で構成する専門部会を置く。
- 〈役割〉
- 計画等の原案作成や諸課題の解決に必要な調査、企画、資料の取りまとめ等

調査・企画・資料作成等

事務局：企画部 復興推進課（市街地施設推進室）
連携課：総務部 財政課、企画部 企画課

資料 9 検討組織

宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会要綱

平成 26 年 5 月 28 日制定 告示第 103 号

平成 27 年 3 月 31 日改正 告示第 59 号

(設置)

第 1 条 宮古市中心市街地拠点施設整備事業に関する事業計画及び諸課題について検討するため、宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第 2 条 委員会は、委員 25 人以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 関係機関及び各種団体の代表者又は職員
- (3) 公募による者
- (4) その他市長が必要と認める者

(委員の任期)

第 3 条 委員の任期は、第 1 条の規定による検討が終了したときまでとする。

(委員長及び副委員長)

第 4 条 委員会に委員長及び副委員長 1 人を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 5 条 委員会は、市長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第 6 条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を求めることができる。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、企画部復興推進課において処理する。

(補則)

第 8 条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この告示は、平成 26 年 5 月 28 日から施行する。

附 則

この告示は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会委員名簿

(委嘱期間：平成27年5月15日～平成28年3月31日、敬称略)

No.	選出区分	所 属 名 称	職 名	氏 名
1	学識経験者	弘前大学教育学部	教授【委員長】	きたはら けいじ 北原 啓司
2	関係機関	宮古商工会議所	副会頭【副委員長】	てらさき つとむ 寺崎 勉
3	関係機関	一般社団法人宮古観光文化交流協会	会長	さわだ かつじ 澤田 克司
4	関係機関	社会福祉法人宮古市社会福祉協議会	会長	あかぬま まさきよ 赤沼 正清
5	関係機関	一般社団法人陸中宮古青年会議所	青少年交流委員会委員長	ふとながね りえこ 太長根 理恵子
6	関係機関	宮古市芸術文化協会	会長	おの でら ふみお 小野寺 文雄
7	関係機関	一般社団法人宮古医師会	理事	うちだ えいこ 内田 瑛子
8	各種団体	宮古地域自治区（重茂漁業協同組合）	（女性部長）	もりあい としこ 盛合 敏子
9	各種団体	田老地域自治区（田老地域協議会）	（会長）	はやしもと たくお 林 本 卓男
10	各種団体	新里地域自治区（新里地域協議会）	（会長）	なかの まさたか 中野 正隆
11	各種団体	川井地域自治区（川井地域協議会）	（会長）	いとう かずえい 伊藤 和榮
12	各種団体	宮古市消防団	団長	やました しゅうじ 山下 修治
13	各種団体	末広町商店街振興組合	理事長	さこう えいいち 佐香 英一
14	各種団体	中央通商店街振興組合	理事長	たかはし まさゆき 高橋 雅之
15	各種団体	宮古市町内自治会連合会	会長	よこた だいじゅ 横田 大樹
16	各種団体	宮古市地域婦人団体協議会	会長	すずき みつこ 鈴木 光子
17	各種団体	宮古市PTA連合会	理事	くどう あゆみ 工藤 歩
18	各種団体	昭和通りのおかみさんもてなしたい	隊長	ささき けいこ 佐々木 慶子
19	公募委員			いわた ひろこ 岩田 博子
20	公募委員			こんの ゆう 金野 侑
21	その他	東日本旅客鉄道(株)盛岡支社宮古駅	宮古駅長	ひらふじ かずしこう 平藤 一氏幸
22	その他	(株)三陸鉄道	代表取締役社長	もちづき まさひこ 望月 正彦

※ No.17 工藤委員は、平成27年7月31日に委嘱

宮古市中心市街地拠点施設整備検討委員会要綱

平成26年5月23日 制定

平成27年4月 1日 改正

（設置）

第1条 宮古市中心市街地拠点施設整備事業（以下「整備事業」という。）を総合的かつ効果的に推進するため、宮古市中心市街地拠点施設整備検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（所掌事務）

第2条 委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- （1）整備事業の計画等の策定に係る検討に関すること。
- （2）その他、整備事業の計画等の策定に関し必要な事項に関すること。

（組織）

第3条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

2 委員長は企画部長、副委員長は復興推進課長をもって充てる。

3 委員は、別に定める職員をもって充て、委員長が指名する。

（委員長及び副委員長）

第4条 委員長は、会務を総理する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

（専門部会）

第6条 計画等の策定に係る検討に必要な調査、企画、資料の取りまとめ等を行わせるため、委員会に専門部会（以下「部会」という。）を置き、各部会の名称及び構成は、別に定める。

2 部会は、市の関係課担当長、その他必要な職員で構成する。

3 部会に、部会長及び副部会長を置く。

4 部会は、必要に応じて新たに設置あるいは廃止することができる。

（庶務）

第7条 委員会の事務局は、企画部復興推進課に置く。

附 則

1 この要綱は、平成26年5月23日から施行する。

附 則

2 この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

宮古市中心市街地拠点施設整備事業

(委員会要綱第3条関係) 宮古市中心市街地拠点施設整備検討委員会構成員

No.	選出区分	所属・職名	氏 名
1	委員長	企画部長	山崎 政典
2	副委員長	企画部 復興推進課長	多田 康
3	委 員	総務部 総務課長	野崎 仁也
4	委 員	総務部 財政課長	菊池 廣
5	委 員	総務部 契約検査課長	佐々木 勝利
6	委 員	企画部 企画課長	伊藤 孝雄
7	委 員	市民生活部 総合窓口課長	大森 裕
8	委 員	市民生活部 生活課長	佐藤 裕子
9	委 員	保健福祉部 福祉課長	松舘 仁志
10	委 員	保健福祉部 介護保険課長	三浦 吉彦
11	委 員	保健福祉部 健康課長	伊藤 貢
12	委 員	産業振興部 産業支援センター所長	中嶋 良彦
13	委 員	産業振興部 商業観光課長	下島野 悟
14	委 員	都市整備部 建設課長	箱石 文夫
15	委 員	都市整備部 都市計画課長	中村 晃
16	委 員	都市整備部 建築住宅課長	松下 寛
17	委 員	危機管理監 危機管理課長	戸由 忍
18	委 員	教育委員会事務局 総務課長	中嶋 巧
19	委 員	教育委員会事務局 学校教育課長	妻田 篤
20	委 員	教育委員会事務局 生涯学習課長	伊藤 重行
21	委 員	上下水道部 経営課長	飯岡 健志
22	委 員	議会事務局 事務局次長	佐々木 純子

(委員会要綱第6条関係) 宮古市中心市街地拠点施設整備検討委員会専門部会構成員

No.	部会名	構成課所等名(◎部会長、○副部会長)	備 考
1	地域防災部会	◎危機管理課、○消防対策課、生活課、上下水道部施設課	防災拠点施設、防災システム
2	市民協働部会	企画課、◎生活課、福祉課、介護保険課、商業観光課、○生涯学習課	地域活力創出拠点施設
3	保健福祉部会	○福祉課、介護保険課、◎健康課	被災公共施設機能回復
4	市民窓口部会	○税務課、◎総合窓口課、生活課、福祉課	行政機能集約・効率化
5	建設環境部会	環境課、◎建設課、都市計画課、○建築住宅課、上下水道部施設課、財政課	拠点施設建設・拠点環境整備
6	議会協働部会	◎議会事務局	議会及び議会事務局機能
7	施設活用部会	企画課、◎財政課、産業支援センター、○商業観光課、都市計画課	現有施設及び跡地利活用
8	総務情報部会	◎総務課、企画課、○財政課、都市計画課、教育委員会総務課、教育委員会学校教育課	総合調整(行政機能集約・効率化)、情報システム
*	その他	必要に応じて、新たな部会を置くことができる。	

(平成27年4月1日現在、必要に応じて、委員長が指名あるいは設置する。)